

第 2 号

平成 6 年 1 月 20 日

江田島町
シルバ－
人材センター

シルバ－ 江田島



一術校見学案内点描

○候補生学校の赤煉瓦の説明で既に一世紀を経ているのに、その色鮮やかさに「ホー」という感動の声。

○当方から一方的に案内するのではなく、時には逆に問いかけをする。

「海軍時代からの伝統の五分前精神、厳肅な課業整列（朝礼）、国旗掲揚、そして国旗降下の時刻は何時だと思われるか」の問いかけに、ほとんどの見学者が午後五時という。「いや降ろす時刻は毎日違うのです」見学者は不審顔となる。「海上自衛隊は艦艇が主体であり、艦旗の降下は月没であるため毎日降ろす時刻が変わってくる」見学者は納得した顔となる。

○中学生、高校生の団体には、特に五分前精神について強調する。

「五分前には次の作業等のため心の準備を行うというよい伝統が受け継がれている」と。

○中学生の校外学習から

先生の号令「前にならえ」。生徒は両手をあげることはあがるが前の生徒の腰あたりまで。また顔は横を向いたり互いに話合ったりして、当然列は蛇行している。先生再び「オーイ、エエ具合に並んでくれえや」、生徒は知らん顔。

そこで今度は私から号令をかけた。

「これから案内する。右向けエー右、前エツ進めッ」生徒は私について

(二ページ下段につづく)

シルバー人材センター に寄せて

江田島町議会議長

平木重己



人材センターの皆さん 新年おめでとございます。新春を迎え、会員皆様のご健勝と、センターのご発展を切にお祈りしてやみません。

さて最近の出生率低下と、平均寿命の伸びで、近い将来、我が国は世界一の高齢化社会を迎えるであろうと言われています。各地方自治体は、高齢者の保健、医療、福祉等の充実を計る為、今けんめいに努力しています。我が江田島町も「高齢者保健福祉推進一〇年戦略」を手作りで策定中です。

このことは勿論重要な事ですが、全て行政に頼るばかりでなく、我々自身が地域のため、又、自分自身のため何が出来るかを自問し、行動することも大変意義深いことと言わねばなりません。この意味で自らの健康とノウハウを活かし、社会参加の中で生きがい創造しておられるセンターの皆様には心からの敬意を贈ります。又、法人化をなすとげ、今日の発展を生み出された関係者各位に深く感謝申し上げてご挨拶と致します。

社会見学の車の運転、 ありがとう

ありがとう



小用小学校の三年生の担任の宮川先生から、社会見学の車の運転のお礼の手紙が来ました。紹介します。「先日私達三年生の社会見学の運転をしていただきありがとうございました。途中、むずかしい所を急に通ってもらったり、たいへんだったと思います。又、子どもたちのことを考えて安全運転をしていただきました。色々気をつけてもらったことと思います。感謝の気持ちでいっぱいです」

仲間

また、日高真寛くんは「バスのうんでんしゅさんへ うんでんしゅさん、わざわざ切串、大須、青年の家、津久茂、宮ノ原、わしべ、江田島小学校、秋月まで行ってくださってありがとうございました。ぼくたちは、これで

雨が降らなければよいが

ずいぶん勉強になりました。青年の家のカッターのある所まで行ってくれたからうれしく思っています。きつい道もわざわざ行ってくれてありがとうございました。今度もつれていってください」

十二月三日の昼前、小用公園の除草作業の現場に行きました。

婦人一人、男性五人が二手に分かれ、一組はグラブのまわりの草刈り(男性二人、女性一人)、他の一組はがけの草集め。大きな熊手で、すでに刈った草を下に集め、これから燃すとのこと。雨のばらつくあいにくの天気でしたが、お昼まで作業の手をとめません。

「道路のまわりをまじやうり、そのあと目立つ所の草刈りをします。桜やヤシの木の中は年に三回します。今日は六人でやっていますが、多いときは十四、五人。ヤシの

林の中は、葉が落ちてむずかしいのです。枯草を集めて焼くときは消防署に連絡しなければならぬ。雨が降らなければよいのですが。



(一ページからつづく) 来た。先生の方をチラッと見ると、その顔はニガ笑い。○教育参考館にて 遺書を読んでいたら、涙がとめどなく流れ出て、あとは読めなくなつたという御婦人、参考館を出てもまだ眼もとがうるんでいた。

六十才代の男性 同級生が海軍で二人戦死しているの、遺書は胸がつまって読まれなかった。 団体で見学に来た男性 深い感銘を受けたので、今度ファミリーで来たいが、手続きはどのようによいのか。

定時で来られた七十才代の品位のある人(企業の経営者か?) 四十才前あたりの男性(秘書?) が随行していた。今度団体で見学に来たいが手続き等はどうかすればよいのかとの質問。恐らく社員の精神教育に心をせられたのであろう。

小、中学生は、参考館を十五分ぐらいで一巡して出てくる。特攻隊員として死地に赴く若者の従容とした中にも悲壮な心情が分るはずもなからうし、元大將等の遺品や書を見てもこれこそ何の感動も覚えないようである。その点五、六十才代の御婦人達は、時間一杯を費やされ、超過したりすると同行した人が呼びに引き返したりされる。

戦後四十八年を経過しており、時の流れをしみじみと感じさせられる。

仕事は多いが人手が 少ないので忙しい

秋晴れの日の昼すぎ、秋月小学校で植木の剪定をしている現場を訪れました。

「仕事は多いが、人数が少ないので結構忙しいですよ」

開口一番こう言われたあと、「真夏、八月は仕事をしないが、あとは年中通してあります。六、七月は松の新芽どり、これは他の仕事と違うので、ぐちよつとむしつてくれ」と言うわけにはいかないし」

道路わきの木の枝を伐る作業の手を休めないで私の質問に答えます。

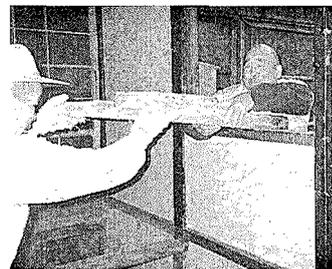
「六、七月を除いて他の月は植木の剪定、個人の家からの依頼もあります。剪定でいちばんむずかしいのは、枝のない木をつくること。新芽が沢山出ているのは、いらぬ芽をとればいいのでやさしいが、枝のない木をどうつく



るか、本当にむずかしいですよ」
岡本さんは盆栽を趣味でやっていたが、剪定ができるので、今ではこれが本業になったと

われら働

のこと。
山佐さんと二人、作業の手を休めないで話してもらった一時でした。



ずっと大工仕事を やっています

十二月初め、小雨模様の日、昼すぎ、小用のSさん宅の改修工事の現場を訪ねました。

Sさん宅に着いた時には、二人で玄関の三畳の部屋のくさった根太を外に出す作業の最中。

「雨もりでくさってしまったんじゃろう」

と言いつつ敷居をはずし、「厚みを測ってくれい」

「一寸五分じゃのう」

「いつからこの仕事にかかっているのですか」
「秋月がすんだので、今日からここにかかった」

そう答えながらも、鋸で根太を切り、外に出す手を休めません。

「これ、いもがまじやのう」と教えてくれました。

「何日ぐらいの予定ですか」

「床だけでなく、天井も玄関のあがり口もあるので、何日かかるか」

「ずっと大工仕事をやっているのですか」

「そうじゃ。わしらだけでなく、他にもいるが注文が多くて」

お二人が朽ちた根太を外に出しているところを写真にとり、そこを去りました。

素手での作業 手が荒れるのでは

秋の昼すぎ、秋月の大行寺の除草作業の現場を訪ねました。

ヘルメット・安全帯の着用を!

本年もよろしくお願ひします。

旧年中は、安全就業委員会を毎月一回開き、安全就業について努力してきましたが、簡単な切り傷と転落事故がそれぞれ二回おきました。

転落事故は十月二十日、Aさんが剪定作業中に、十一月二十九日にはBさんがトタン板の屋根根工事中と続きました。

Aさんは六日間の入院、二十日間の通院治療を経て十二月始めから作業に従事。また、Bさんは二週間の入院、経過も良好で、正月

「法事説教があるので、寺が草もふれではということかもしれんね」
私の問いかけに答えつつも石垣の間の草を抜く手は休めません。
「毎週土・日が休みで、あとはずっと出ています。ここは家に近いので楽だが、遠くへ車で連れていってもらう時もあります」



小石だらけの棚地と石垣。手袋もせずに草を抜く。手が荒れないのかなど他人ごとながら心配しました。

は自宅で迎えることが出来ます。

原因はヘルメットや、安全帯の着用がなされていなかったこと。歳を考えて、気分は若い実年代にそって各部署で注意してください。通勤途中についても、一月下旬、二月の厳寒期には降雪、路面凍結などスリップ事故のおそれがあります。通勤途上の交通事故には十分な注意を。「安全ルールブック」を今一度熟読して、怪我のない日々を送りましょう。
(安全就業委員会より)

湯原温泉・蒜山高原親睦旅行記

今年四度目の親睦旅行。

その日を子どものように待っていた日の朝八時に、待期場所から迎えるバスに乗り込む。江南地区から乗車する人達を除いて、大多数の会員が車中の人となっていた。

車内は一段とほしやいだ雰囲気。あたかも小学生の遠足に出かける車中のような。六十才を過ぎた集団は、子ども達と同じ心理状況なのか。呉だおを越えて、一路山陽高速道路東広島インターへ。賑やかな笑声が飛び交う。高速道路に入って最初の生理休憩を志和サービスエリアでとる。年を重ねると、便所との付き合いは濃くなる。

野生のサルがたくさん住んでいるといわれる岡山県の神庭の滝に到着する。ポケットに手を入れたり、袋物をぶらさげていると、サルに狙われる事をお互いに注意しながら紅葉間近の樹木の中を滝壺まで行き、思い思いに小グループで滝をバックにカメラにおさまる。サルに狙われる危惧は



不発に終わった。

神庭の滝を後にして、目的地湯原温泉松の屋ホテルに予定より三十分早く到着した。温泉につかり、夜の宴会まで時間はたっぷりある。

六時、宴会場で理事長の挨拶を期に、待望の酒宴が始まる。酒が入る程に談笑の度合が多くなる。会員それぞれのおは、この歌が披露される。ヤジも出る。職人芸だ。ホテルの女性と踊る人も出始めた。二時間半、まさに歌えや踊れやである。六十才を過ぎて、第二の人生を、地域の人達との新しい出会いを持った会員が、一年に一度の命の洗濯と意義を確かめあった。



翌朝、自宅での睡眠時間より長くとったさわやかな目覚めをホテル五階の部屋で迎えた。聴くところによると、夜の街に出た人が約何名かいたとのこと。

お盛んなことだ。蒜山高原へ向かう途中の野山の紅葉は少し早いようだ。車中は、昨夜の宴会の出来事を引き継いで一段と話題も多く、にぎやかだ。展望台に到着。早速、他の旅行者と一緒にカメラにおさまる人もいる。これも旅行のコマ。夕食の焼き肉は食べきれない。油

税金、知っておかなければ損

所得税の確定申告の時期が近づきました。シルバーセンター会員に対する配分金の控除額は65万円までとなっています。このため、配分金に対する税金は次のようになります。

1 シルバー配分金のみの方

- 65歳未満の方 100万円まで 非課税
- 65歳以上の方 150万円まで

2 シルバー配分金と他の所得のある方

- 65歳未満[{(配分金－配分金控除65万円) ＋ (公的年金等－公的年金等控除)} － {基礎控除35万円＋ その他の所得控除}] × 適用所得税率 = 所得税額
- 65歳以上[{(配分金－配分金控除65万円) ＋ (公的年金等－公的年金等控除)} － {基礎控除35万円＋ 老年者控除50万円＋ その他の所得控除}] × 適用所得税率 = 所得税額

● 事務局だより ●

会員の皆様

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、私達事務局も気持ちを新たに、皆様のお手伝いをさせていただきます。どうぞ、本年もよろしくお祈りします。

昨年十月末、森事務局長が入院、手術の折には、皆様にたいへんご心配をおかけしました。経過も順調で、退院後、しばらく静養のあと現在、仕事に復帰しております。

紙面をかりて心からお礼申しあげます。

M・K・

がはじける。「残りはお持ち帰りを」のジョークも出る。到着したときに撮った写真が出来あがっている。皆さん、今回の旅行のアカシとして購入している。何枚、こうした写真がアルバムに貼られるか、予想もできない。多い方がいいのだが：。食事をするとなしみが一つ消えていく。車中での罪のない会話と談笑が旅行の目的、意義を改めて認識させてくれる。アルコールは各自、よくはいるものだ。ただの液体なら、あれだけの量は入らないだろう。五時過ぎ、終点の江田島に無事降り着く。明日からのお互いの元気な就労を誓いながら、買いこんだたくさんさんの思いをこめた土産を持って下車。一泊二日の旅行の幕はおろされた。